

「

BELIEVE



2013
秋号
VOL.46

」

● **専門性の高い眼科診療**

● シリーズ 情熱の白衣・看護師レポート



Saint-Malo ● 39 廣瀬 良太郎 ・制作年/2011 ・素材/写真、水引 ・520×795mm

<http://www.d-n.jp>

「概念の違う水色」-現実を創っているのは芸術-

この作品は、北フランス・ブルターニュ地方のサンマロという町の写真をベースにして、絵の具の代わりに水引を使って描いている。
概念の違う水色とは、作者が制作中に感じ取った色である。

大阪赤十字病院の基本理念

わたくしたちは人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さまの権利

1. だれもが、一人の人間として、人権がまもられる権利を尊重します
2. 良質かつ適切な医療が、公平に受けられる権利を尊重します
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利を尊重します
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利を尊重します
5. プライバシーがまもられる権利を尊重します

専門性の高い眼科診療

一人ひとりに応じたオーダーメイドな治療と、病診連携の重要性

当院は、日本眼科学会基幹研修施設に認定されており、地域の中核病院の一員として、ご紹介いただいたかかりつけ医あるいは診療所の先生と、連絡を密に取りながら病診連携に努めています。

また、新しい検査や手術機器も導入され、白内障・緑内障・網膜硝子体治療を中心に、専門性の高い眼科診療に意欲的に取り組んでいます。今回は、診療実績と硝子体手術についてご紹介します。

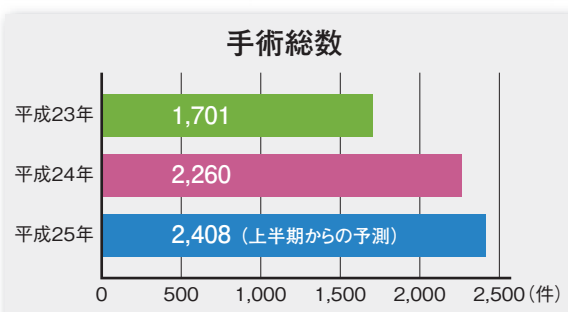
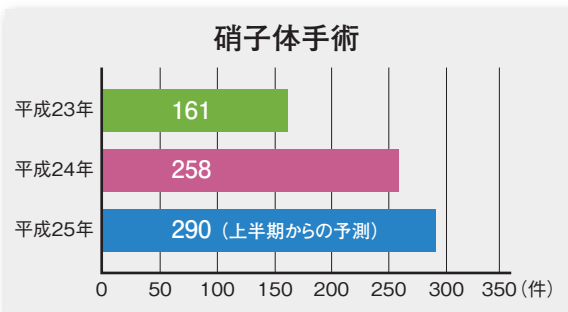
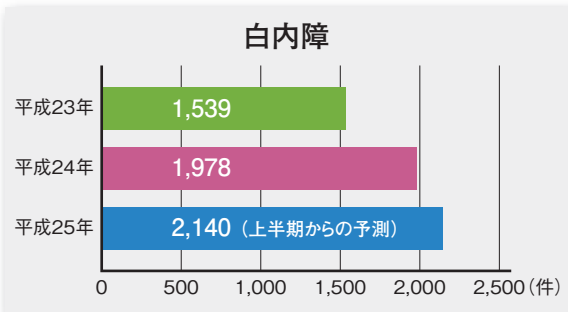


眼科部長 秋元 正行

京都大学医学部卒業後、天理よろづ相談所病院にて顕微鏡手術を深める。京都大学大学院を修了後、信州大学、ミシガン大学、京都大学医学部附属病院探索医療センター開発部、網膜再生医療プロジェクトに所属し、眼科における遺伝子治療、再生治療の研究に携わる。尼崎病院院長として臨床現場に復帰。京都医療センター院長を経て、平成24年より当院眼科部長に就任。
日本眼科学会専門医 指導医、眼鏡等適合判定医師、臨床研修指導医、眼科PDT認定医、京都大学医学部臨床准教授。

当院の方針

当院は地域の基幹病院としての役割を果たすため、手術加療に特化することを目指し、白内障だけでなく網膜硝子体疾患に対しても、積極的に治療を行っています。平成23年1,700件だった手術総数は、平成24年には500件増加して2,260件になりま



した。平成25年には上半期の実績から、さらに200件増加して総件数2,400件が見込まれています。平成24年増加した500件のうち、白内障手術が約400件、網膜硝子体手術が約100件でした。手術件数は増えていますが、手術室の改変、最新機械の導入などにより、さらに安全性の向上も果たしています。

手術件数の増加に伴う当院の取り組み

手術件数の増加に伴い、外来数もわずかに増加しています。術後経過が良い場合、慢性期や長期安定した病状の場合は、提携した近隣医院に転院していただき、病診連携を行うことで、外来の待ち時間を減らしながら、悪化、再発などにも速やかに対応できるよう努力しています。



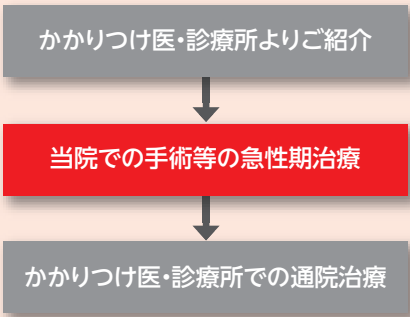
現在、白内障入院手術は約2カ月お待ちいただいておりますが、硝子体手術の場合は、病状に応じて即日入院から対応できるように努めています。外来診察の待ち時間は、まだまだ短いとは言えませんが、近隣医院からの紹介の場合は、通常の予約と同様に对应して、待ち時間の短縮に努めています。さらなる病診連携にご協力をいただきますようお願いいたします。

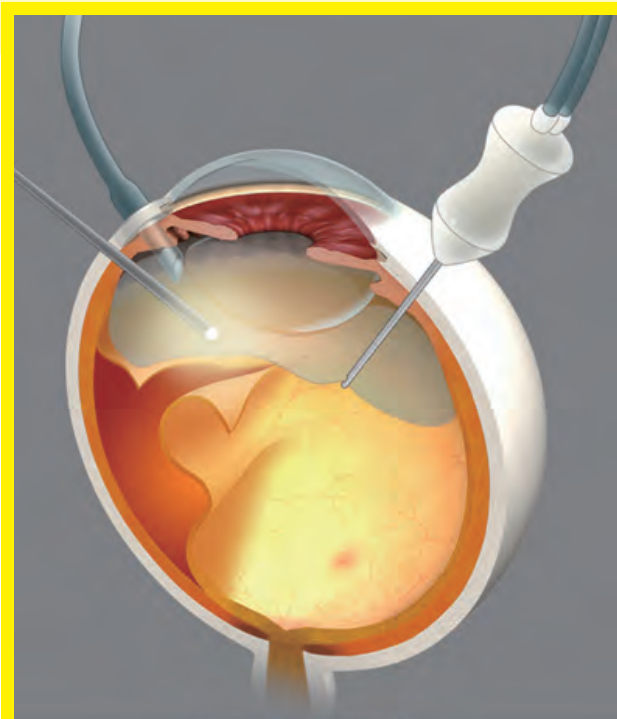
病診連携の重要性

目の病気は徐々に進行するために、悪化に気づきにくい慢性の病気だけでなく、急に発症しても、反対眼が見えていくことで気づきにくい病気があります。

そして「目の手術は怖い」と、症状があつても診察を先延ばしにされる方をお見かけします。放置して悪化すると、治療が困難になる場合もあります。日頃からかかりつけ医を見つけて、気軽に受診できるようにすることが大切です。

病診連携の基本方針



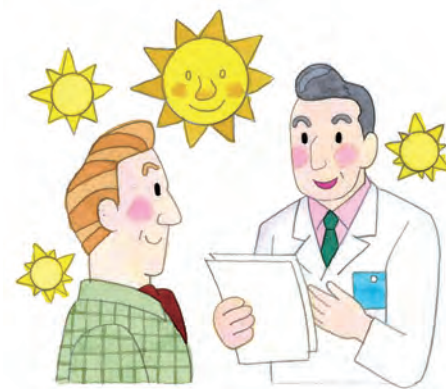


硝子体手術 イメージ図
© Japanese Ophthalmological Society

硝子体手術について

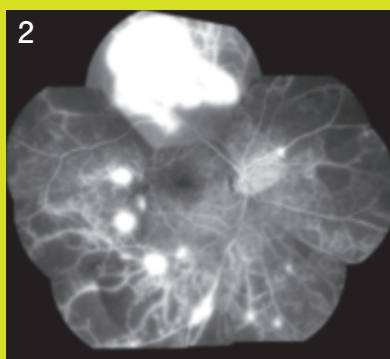
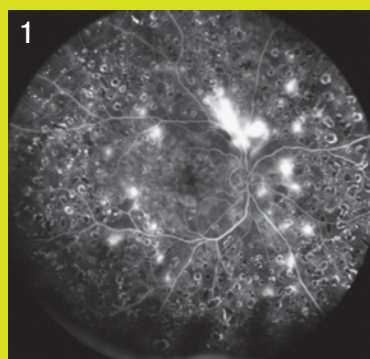
硝子体手術の対象となる疾患は、緊急性の高い裂孔原性網膜剥離をはじめとし、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、黄斑円孔、黄斑前膜、網膜分離症などがその対象となります。今年の初めに最新型の機械を導入し、ほとんどの手術が縫合の必要がない小さな傷口から行う手術となっています。硝子体手術が対象となる病気は入院期間が長くなりがちですが、安静度の見直しによる入院生活の向上を図りながら、入院期間自体も短くできるようになってきています。

網膜硝子体疾患の診断には共焦点レーザ走査型眼底検査装置、光干渉断層撮影装置が不可欠ですが、これらも本年度中に最新機種種の導入を予定しています。診断から治療まで、さらにレベルの高い診療体制を目指して参ります。



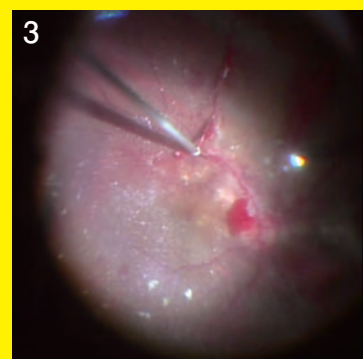
眼底撮影

- 1:新しい眼底撮影 一方向で150度撮影できる。
- 2:通常の眼底撮影 いくつかの写真(50度)を切り貼りしている。



糖尿病網膜症

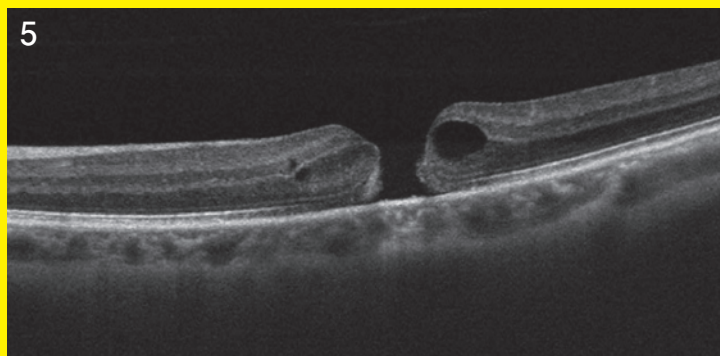
- 3:新生血管からの出血を除去している。



黄斑円孔

網膜の中心にある黄斑部に穴が開く病気。

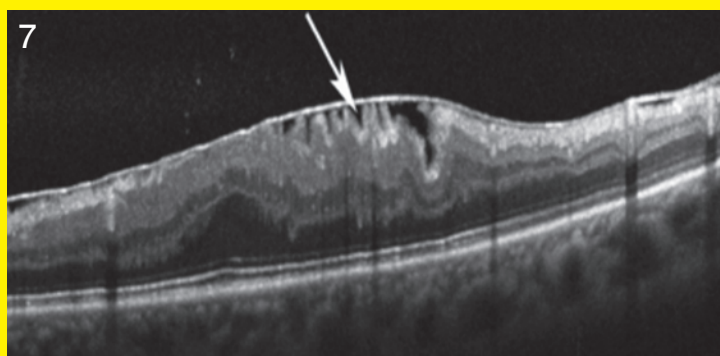
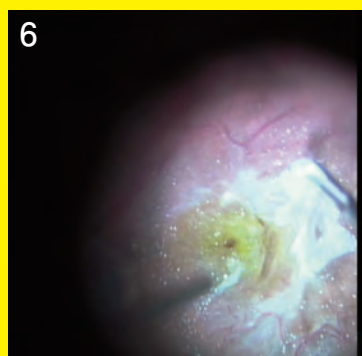
- 4:手術 内境界膜を除去している。
- 5:断面図 黄斑部に穴が認められる。



黄斑前膜

網膜の表面に薄い膜が張る病気。いろいろな原因で発症するが、加齢によるものが多い。ゆがみの症状がゆっくり進行する。

- 6:手術 黄斑前膜を除去している。
- 7:断面図 網膜の上に薄い膜が形成され、網膜がゆがんでいる。



高橋 牧郎

神経内科部長



診察、治療に何を望むのか。
一番に考えるべきは患者さまの「心」。

老化でかかりやすくなる
神経の病気。医療・介護と
マンパワーの充実を。

白衣のポケットから小ぶりのハンマーを取り出す。「このハンマーを使って診察するんです。トントんと当ててみて、一発でわかることがあるんですよ。」

今年4月に高橋医師が部長として就任した神経内科は、登場して約50年という医療界では新しい科。今こそMRIの撮影画像で患部の発見・確認ができるが、昔はハンマーを使うのみ。異常がある所を道具ひとつで見つけていく、専門性の高さが興味深いところだと言う。「神経内科は『難しいもの』と敬遠されがちですが、やりがいを感じられます。父親も神経内科の医師だったんです。ですが私は未知の世界である脳に興味があり、脳外科を勉強しようと思っていました。そこから

神経内科を選んだのは、父の背中を見て、影響を受けたのかもしれないね。」

神経内科医になってからは、日本で現場を経験後、アメリカに研究留学へ。帰国後は大学で研究指導、神経内科部長として活躍されてきた経歴から、多くの大学・病院にて指導・診療に期待が寄せられているのがわかる。「神経の病気は老化でかかるものが多い。治療・経過期間も長期にわたります。脳卒中を起こすと麻痺が残ったり、パーキンソン病にかかる歩けなくなるなど、医療から介護へとニーズが変わり、そのニーズに応えきれないのが現状です。院内とともに、地域病院との医療連携を図り、スムーズにバトンタッチができるシステム・マンパワーを備えることが課題ですね。」

MAKIO TAKAHASHI 12月4日、東京都生まれ。京都大学医学部卒業後、研修を経て神経内科専門医に。米国ニューヨーク・フロリダの大学で研究留学に従事し、帰国。財団法人北野病院・大阪府済生会中津病院にて神経内科の臨床、京都大学神経内科助教として研究の指導と、多方面で活躍。今年4月より当院神経内科部長に就任。

アメリカ留学は家族と一緒に。休日は子どもと過ごしたいですね。

講演や学会の出張で休日も仕事になると辛いのは、「子どもとの時間がない」と。というのも、高橋医師は小学5年生になる双子の娘さん、5歳、3歳の息子さんと、



今年の夏休みは家族で登山。中央アルプス駒ヶ岳・千畳敷カールにて。

なんと4人のお子さんの父親でもある。「アメリカ留学時には家族を連れていきました。トレーラーを借りて引越、車で大陸6,000キロを縦横断しました。幼かった娘たちも当時のことを覚えていて、いい思い出になっていますね。」と父の顔を覗かせてくれた。

「大事にしたいことは何ですか」と聞くと、こんな答えが返ってきた。「たとえば頭痛がするから痛み止めを処方して終わり。そんな診察から『自分の辛さを理解してもらえない』と病院を転々としてしまう『頭痛難民』を生み出す現象も起こっていると聞きます。考えるべきは、患者さまにとって何が一番なのかという点。訴えをもとに検査を行い、説明をし、処方をする中で、患者さまの不安を取り除くことが大事だと思いますね。」

難しいもの、専門性が高いものこそ、マンパワーは必要。診療の質を高めていくために、日々奔走している高橋医師。ですが、ときには家族の時間も大切にしてくださいね。

看護師レポート◆46



患者さまの近くで一緒に、回復への活動を一歩ずつ。

北村 真弓

は神経内科、脳神経外科の患者さまの看護をしております。摂食（食べるための行動）・嚥下障害のある患者さまにリハビリを行っています。昨年摂食・嚥下障害看護認定看護師の審査に合格することができました。

看護学校の実習ではじめて担当した患者さまも神経内科にかかっていた。障害があってもリハビリを続けていくことで回復していく患者さまの看護にあたり、リハビリの効果を実感しました。当院で実習時と同じ神経内科、脳神経外科に配属され10年が経ちましたが、当時を振り返って思うのは、「患者さまの訴えをどうにかしてあげたいけれど、どうすればいいのかわからない」と、看護の難しさにつまづいていましたね。「こうしてほしい」と私たちに訴えるのが難しい患者さまの気持ちを取ることができず、行き詰まったりもしました。そんな時期もありながら、認定看護師の教育課程を受けたことで、今までなかった知識を得ることや、同じ悩みを持つ看護師と勉強ができ、看護の幅が広がってきたように思います。



今、クラフトブックづくりが北村さんの周囲でブームなのだそう。

認定看護師になってから、講演する仕事もあつて忙しくなりましたね。お休みの日は資料作りに追われることもあり、仕事が終われば家族や友人と食事やショッピングに出かけます。長い休みがとれたら旅行に行きたいですね。

今の私の目標は、大学で学んだことを院内に広めていくこと。当院では、看護師、言語聴覚士、栄養士、歯科衛生士とで「嚥下チーム」の活動も行っています。口から食べられる、自分の力で食べられる喜びを感じてもらえる、そこから回復につながる活動を一緒にやっていきたいですね。

MAYUMI KITAMURA

9月5日奈良県生まれ。大阪赤十字看護専門学校卒業後、当院に就職。神経内科、脳神経外科の看護を重ね、'11年に日本赤十字広島看護大学の認定看護師教育課程へ進む。摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程を修了。認定審査合格。再び同科の病棟看護に復帰し、現在に至る。

旬の食材と 栄・養・素

栄養管理課 管理栄養士 山口 翔平

やすい気候となってきました。

秋の食材には繊維が多く、お腹の調子を整えてくれる働きがあります。夏に食べ過ぎてお腹を壊してしまった方、急な気温の変化で体調を崩されている方などは、秋の食材を取り入れてみてはいかがでしょうか。

秋の旬の食材

●野菜

かぶ、きのこ類、さつまいも、里芋、チンゲンサイ、にんじん、レンコンなど

●果物

イチジク、柿、栗、すだち、梨、りんごなど

●魚

サケ、サバ、サンマ、シラス、タチウオなど

すだちは主役？ 脇役？

魚や肉などに、よくすだちやレモンが添えられていることがあります。せつかくの食事が冷たくなるし、食べるには酸味が強すぎて食べるのも難しく、残してしまうことはありませんか？果物などに含まれるビタミンCは、カルシウムの吸収の手助けをしてくれるのです。そのため果汁をかけて食べると、効率よく栄養素を摂取することができます。添え物として付いていない場合は、食後に果物を摂取することで効果があると言われています。

また、鉄分の吸収についてもビタミンCが関係しています。鉄分にはヘム鉄と非ヘム鉄があり、ヘム鉄は動物性食品、非ヘム鉄は植物性食品に含まれています。非ヘム鉄は、ただ摂取するだけでは吸収率が悪く、ビタミンCを一緒に摂取することで吸収率をあげてくれます。したがって、栄養素の吸収を考えると、ビタミンCが入っているすだちなどは、主役に近い働きをしてくれるのです。



連日の猛暑が続き、体力や食欲を奪う今日この頃ではありますが、秋の訪れはいつになることやら。

8月22日に気象庁より発表された季節予報では9月～11月の気温は例年以上になる可能性が高いとの発表がありました。最近では朝晩の気温の差が激しく、体調を崩し

がんサポートチームからのお知らせ vol.19

放射線皮膚炎に対する スキンケアについて

がん放射線療法看護認定看護師 平野 敏子

放射線治療を受けると、放射線皮膚炎という副作用が生じることがあります。放射線皮膚炎と聞くと、「皮膚がただれて、めくれてひどい状態になるのではないか」ととても痛いのではないかとと思われるかもしれませんが、その症状の程度は、放射線の照射方法や線量によって大きく異なります。また、きちんとスキンケアを行うことで、放射線皮膚炎を予防したり、悪化を防ぐことができます。今回は、放射線皮膚炎とそのスキンケア方法を説明いたします。

▼放射線皮膚炎 放射線皮膚炎は、放射線治療において放射線のあたる部分にのみ生じます。治療を始めて2週間を過ぎた頃から、少しずつ皮膚が薄赤くなり、日を追うごとに赤みが強くなります。20～30回以上治療を行う方は、症状が出やすくなります。皮膚の表皮が薄くなり弱まっているこの時期に、皮膚をこすったり掻いたりして傷をつけてしまうと、容易にびらんを起して皮膚炎が悪化して治りにくくなります。治療終了後2週間ぐらひは症状が続きますが、その後少しずつ回復し、放射線皮膚炎は治癒します。

▼放射線皮膚炎に対するスキンケア ポイントは、皮膚を清潔にすること、皮膚を外的刺激から守ることです。いつも通り入浴してもかまいません。ただし、熱過ぎるお湯は皮膚に刺激が強いため、避けたほうがよいでしょう。洗うときは照射部位の部分をタオルでこすらず、手でやさしく洗ってください。皮膚を保護するには、「触らない・こすらない・掻かない・何もつけない・塗らない・貼らない」ということが大切です。皮膚にやさしい衣服を着用し、自分で薬を塗らないことです。湿布やカイロを貼るのもやめましょう。このように皮膚を清潔にして外的な刺激を与えないことが、何よりの予防になり悪化を防ぐこととなります。

放射線治療を受けたことがある患者さまは、もしこれから放射線治療を受ける患者さまが身近におられましたら、ぜひ先事として、皮膚炎の体験をお話しいただいたら、何よりの心強いアドバースになると思われます。治療を受けている間は、放射線治療科の看護師が、細やかなサポートに努めます。不安やお困りのある方は、いつでも気軽に地下1階の放射線治療科までご相談ください。

がん看護相談室 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。

TEL:06-6774-5192 FAX:06-6774-5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

お薬ニ知識

薬剤部 松村 友和

バイオシミラー医薬品について

皆さんは、「バイオシミラー」という医薬品のご存知でしょうか？ まだまだ世間一般には広がっていませんが、後発品やジェネリック医薬品は耳にされている方は多いかと思えます。バイオシミラーとは、バイオ医薬品の後発品のようなものです。従来、お薬は化学合成品（イメージとしては試験管の中で化学反応を起こして作られるもの）や、漢方薬のように薬用植物等のエキスを抽出して作られるものがあります。バイオ

医薬品は、それらとは作られ方が違います。一部の生物により、遺伝子組換え技術（バイオテクノロジー）を利用して作ったタンパク質のお薬のことで、インスリンやホルモン剤、抗がん剤の一部などが医薬品として使用されています。ところが、バイオ医薬品はどれも価格が高いため、治療にかかる費用が高額になります。この



ような理由で、がんの治療などをあきらめなければならぬ患者さまも少なくありません。そこで開発されたのが、バイオシミラーです。医薬品には特許があり、通常、開発された医薬品は10年間、他の製薬会社は製造することができませんが、後発品については、特許が切れた後に製造して販売することができます。バイオシミラーは、そのバイオ医薬品を先に開発された医薬品とほぼ同じ品質、安全性、有効性（効き目）であることを証明することによって、国が承認するお薬です。遺伝子組換え技術を利用するので、作られる方が難しく後発品のように価格は低く抑えることはできませんが、それでも、高額なバイオ医薬品より価格は抑えられる一方で、医療費の軽減にもつながると期待されています。今はまだまだ馴染みのない医薬品ですが、今後は多くのバイオシミラーが開発されていく予定だと思われます。このような医薬品を使っていれば、より良い医療が提供できたらいいですね。

2009年より始まったウガンダ北部の病院への支援事業も、今年で4年目を迎えます。今回は、当院の中出雅治医師が現地で行っている主な活動について、ご報告いたします。

移動外科チーム、村へ行く

内戦収束後のウガンダ北部の病院に外科医を派遣する支援事業を開始して、今年で4年目になります。

もともとこの事業は、外科医不在のウガンダ北部の病院に継続的に外科医を派遣し、手術を行い、現地の若手医師を指導することを目的としているため、普段は現地の病院で仕事をしています。ところが日本と異なり、周囲100キロに病院がひとつというような状況で、人々が病院に来ることは容易ではないため、病院から資機材一式とスタッフを乗せて自動車で行き、巡回手術を行うこともあります。今回はこの移動手術チームについて紹介します。

平日は病院での手術が忙しいため、移動手術チームは土曜日にしか出かけることになりません。この日のチームは12人で、手術機材を屋根に積んだランドクルーザーに乗り込み、1時間半ほど離れた村へ手術に行きました(写真1)。村の保健所を借りて、持ってきた資機材を広げ、即席の手術室を設営します(写真2)。事前に村のボランティアに頼んで、この日に手術チームが来ることを村人に知らせており、三々五々集まってきた村人に手術を行います。移動チームですから簡単な手術しかできませんし、消毒器具がなくなれば終了です。代金は無料で、3日後に看護師チームが術後経過を見に村を再訪します。

移動手術チームで1か月に170件の手術を行う月もありました(写真3)。

アフリカのへき地の医療事情は、日本における「医師不足」、あるいは「医療過疎」などという言葉では表現できないくらいに厳しいものです。しかし、これは単に国が貧しいとか、国の医療システムの問題で片づけられるものではなく、その国の政策、あるいは民族や文化といったものまで関わる問題で、複合的な視点から見ることがあります。その中で、どういう形での支援が必要か、日本人医師の技術や知識を活かし、最も現地にとって良い支援となるのか、現地の病院スタッフとも相談しながら日々活動しています。



3.即席の手術室で手術



2.資機材を広げて手術室設営



1.資機材を積み込んだランドクルーザー

2階レストラン・コーヒーショップをリニューアル

10月下旬OPEN!

営業中



患者さまへのより良いサービスの提供を目指して、9月2日から2階レストランが運営者を変更してリニューアルされました。また、コーヒーショップも10月下旬を目途に、新規

業者にてリニューアルオープンされます。現在工事のため、患者さまやご利用の皆さまには、たいへんご迷惑をおかけしておりますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

■レストラン「ロイヤル」

営業時間 平日/8:00~18:00、土曜/11:30~15:00
定休日/日曜・祝日

■コーヒーショップ「タリーズコーヒー」(10月下旬開店)

営業時間 平日/7:00~20:00、土日祝/9:00~18:00

紙類のリサイクルにご協力お願いします。

平成25年10月1日より、大阪市内の事業所では紙類の分別が義務付けられました。当院も対象となりますので、院内でのリサイクルできる紙類は「燃えるゴミ」として処分するのではなく、所定のリサイクル専用のゴミ箱に捨てていただくようお願いいたします。

地球にやさしい取り組みを充実させるために、ご来院の皆さまにおかれましても、どうかゴミの分別にご理解とご協力を
お願いいたします。



共用部のゴミ箱に設置
ゴミ箱上部に、リサイクル
できる紙類の種類を
表示しております。



Event 天王寺区民まつりに参加しました



9月8日(日)、五条公園グラウンドで行われた第39回天王寺区民まつりに参加しました。「地域とのつながり。地域に溶け込んだ病院」をコンセプトに参加して6回目。今回も「応急手当体験コーナー」と銘打って、心肺蘇生法(人工呼吸・心臓マッサージ)の手法やAEDの使用方法について説明しました。

コーナーを訪れてくれた大半は小学生。なかには幼稚園児の姿もありました。訓練人形やAEDに触りたい気持ち半分の子どもたちなどさまざまでしたが、「命を救うことができるかも!」と一生懸命に練習している子どもたちは真剣そのものでした。

これからもいろいろな地域の活動に参加し、地域に根付いた病院づくりをしていきたいと思います。

Seminar 大阪赤十字病院 「第7回 市民健康講座」を開催します

テーマ:ピバ! 人間ドック-病気予防と早期発見へのおもてなし

第7回市民健康講座は、「人間ドック」について取り上げます。現在注目されている「予防医学」。脳卒中や心臓病の原因となる糖尿病や高血圧、高脂血症などの生活習慣病はかなり進行しないと自覚症状がなく、またがんについても、早期にその芽を見つけて治療を始めれば、治癒させることができます。そのために、体全体をチェックし、その病気をいち早く発見できる人間ドック受診について、分かりやすくご説明します。お気軽にご参加ください。

- 日 時/平成25年11月9日(土) 14:00~15:30
- 場 所/大阪赤十字病院 2階ロビー ●参加費/無料
- 募集人数/60名(先着順・事前申し込みが必要です)
- 募集期間/10月21日(月)~11月8日(金)
- 内 容/1.「人間ドックって何をやるの?」
心臓血管センター長兼健診部長 田中 昌
2.「脳ドックのすすめ」脳神経外科部長 山下 耕助
3.「乳がん検診を受けましょう」乳腺外科部副部長 露木 茂
4.「あなたが痩せられない本当の理由」
~上手な食事のコツ~ 栄養管理課管理栄養士 堂川 冴子
~上手な運動のコツ~ 健診センター看護師 本多 真弓 竹内 民子
- お申込み・お問合せ先/大阪赤十字病院 2階⑩番窓口
受付時間:平日8:30~17:00
担当:医療社会事業課 06-6774-5192(直通)

Seminar 大阪赤十字病院 「第4回 糖尿病オープン教室」を開催します

テーマ:生活習慣の見直しが糖尿病を予防する PartII

糖尿病は、発症予防、早期発見・治療、合併症の予防が重要です。

「日頃のケア(フットケア、口腔ケア)の大切さ」から糖尿病を知る機会にしてみませんか? 皆さまのご参加お待ちしております。

- 日 時/平成25年11月14日(木) 13:30~15:30
- 場 所/大阪赤十字病院 1階ロビー ●参加費/無料
- お申込み/不要(受講される方は、直接会場へお越しください。)
- 内 容/▶ 講演:萩原 良子(大阪赤十字病院 看護師、日本糖尿病療養指導士)
「知って得する!! フットケア」
大岩 直子(大阪赤十字病院 歯科衛生士、大阪CDE(糖尿病療養指導士))
「ホントはこわい歯周病」
上田 信行(医療法人 上田内科クリニック 院長)
「『じえじえ! きのうちまで元気だったのに!』と言われないために」
▶ 糖尿病療養指導士による血糖測定、血圧測定など
▶ 医師、糖尿病療養指導士による健康生活相談
- お問合せ先/大阪赤十字病院 2階⑩番窓口(受付時間:平日8:30~17:00)
担当:医療社会事業課 06-6774-5192(直通)

Event 「セプテンバーコンサート」が開催されました



9月8日(日)午後2時から1階正面玄関ホールで、恒例の「セプテンバーコンサート」が開催されました。

第1部は、大谷志穂さんのソプラノ独唱、橋田波子さんによるピアノ伴奏で、「赤とんぼ」や「この道」など計10曲が歌われました。第2部は、8名で構成される「みちしるべ」によるオカリナ・ギター・ピアノ演奏が披露され、オリジナルの「四季のメドレー」や「見上げてごらん夜の星を」などがオカリナで、またソロギターで「少年時代」など計9曲が演奏されました。

この日は150人近い観客が来場し、高く天井に響く歌声に感動したという声や、オカリナやギターの演奏が入院中の気分転換になったという声が寄せられ、皆さま思い思いにコンサートを楽しまれたようです。

次の開催は、「クリスマスコンサート」として、12月中旬に開催する予定です。詳細は、当院ホームページや院内ポスター等でご案内いたします。

Seminar 「親と子の防災体験セミナー」を開催しました



8月4日(日) 親と子の防災体験セミナー「災害」を今年も実施しました。

今年は猛暑の中にもかかわらず、昨年の約2倍にあたる202世帯486人の小学生とその保護者にご参加いただきました。地震に関する講義や身近なものを使った応急手当て、手洗いの

指導や救護倉庫の案内等のほか、陸上自衛隊や天王寺区役所、天王寺消防署、大阪市水道局など防災機関による展示もあり、小学生にとっては楽しみながら防災について学ぶ、素晴らしい機会になったのではないかと思います。

Report 「東日本大震災」への募金のご協力 ありがとうございます

当院では院内数カ所に東日本大震災への募金箱を設置し、平成25年6月20日現在、合計3,660,937円の寄付をいただいております。皆さまのご厚意にお礼申し上げますとともに、引き続きご協力をお願いいたします。

編集後記

今年の夏は何回「暑い」と言ったか分からないほどに、暑い夏でした。そうかと思えば、急に肌寒くなったりと本当に季節に翻弄されてしまいますね。そんな季節の中、当院では災害教育や院内コンサートなどたくさんのイベントがあり、社会人一年目の私にとってははめまぐるしく時間が過ぎて、新鮮な季節を過ごすことができました。これから芸術、食欲、運動の秋がやって来ます。「びりーぶ」を読んで、皆さまのご健康の参考にさせていただき、素敵な季節をお過ごしください。(Y.N)

外来診療担当表

平成25年10月1日現在


午前診療 午後診療

科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
消化器内科		津村	中島潤	邊見	井口	齋藤	
		松田史	遠藤	圓尾	喜多	西島	
		関川	岡部	大崎往	米門	圓尾	
		大原		坂本梓	竹田		
		津村	中島潤	邊見	丹家	齋藤	すべて予約制
		松田史	遠藤	丸井	奥	西島	
		関川	岡部	福原	米門	佐田	
消化器内科(肝臓外来)		喜多	大崎往	木村	那須	西川	午後は予約制
糖尿病・内分泌内科		武呂	松尾浩	米光	武呂	南部	すべて予約制
		米光	南部	午前:南部 午後:村上隆	松尾浩	村上隆	
血液内科 (移植外来)		篠原	水谷	花岡知	金子	平田	すべて予約制
		金子	平田	通堂	水谷	通堂	
		篠原	水谷	花岡知	金子	平田	
リウマチ・膠原病内科		片山	石郷岡(予約)	片山(予約)	伊藤博(予約)	伊藤能(予約)	すべて予約制
腎臓内科		菅原	越川	大崎啓	土井洋	越川	すべて予約制
		越川	土井洋	菅原	大崎啓	菅原	
		菅原	越川	大崎啓	土井洋	越川	
		越川	土井洋	菅原	大崎啓	菅原	
循環器内科		担当医	田中	伊藤晴	長央	福地	すべて予約制
		林富		稲田		田中	
		(第1・3・5週:長央 第2・4週:福地)	伊藤晴	林富		稲田	
		林富	田中	伊藤晴	長央	福地	
不整脈内科		内山	牧田		牧田	内山	すべて予約制
心臓血管外科		(ペースメーカーICD 担当医)	中山(予約)	中山(初診)		中山(初診)	すべて予約制
小児科		住本(紹介・初診)	(リウマチ・アレルギー外来 住本)	葭井	(腎臓外来 住本)	(血液外来 藤野)	すべて予約制
		(アレルギー外来 安西)	竹川	(アレルギー外来 肥田)	(神経外来 坂本晴)	金岡	
		(神経外来 奥野)	植村	中道	(心臓外来 杉)	新居	
		林直	(アレルギー外来 住本)	高野		(アレルギー外来 安西)	
小児外科		松川		松川			
外科 乳 腺 外 科		山之口	伊藤剛	山浦	吉村文	中島研	すべて予約制
		花房	金谷	中島康	有本	岡田	
		奥村	有本	鈴木貴	横山	福田	
		露木	山口	(乳腺新患 露木)	(乳腺新患 木)	馬場園	
		山之口	伊藤剛	山浦	吉村文	中島研	
		花房	(乳腺 川口)	中島康	有本	岡田	
整形外科		渡邊	鈴木隆	坂本武	大浦	富原	専門外来は予約のみ
		富	別當	堤	別當	担当医	すべて予約制
		(脊椎外来 坂本武)	(膝関節外来 大浦)	白	(スポーツ・肩外来 鈴木隆)	(第1・3・5週:渡邊 第2・4週:堤)	
リハビリテーション科		好井	好井	好井	好井	富原	
脳神経外科		米田	山下	西村英	山下	金本	予約・紹介のみ
		担当医	金本	担当医	西村英	米田	
		担当医	土井健	担当医	担当医	堀口	

科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
神経内科		高橋牧	中川朋	鈴木聡	金田	高橋由佳子	すべて初診のみ
		榎田	金田	篠藤	高橋牧	中村毅	すべて再診のみ
		中村毅	鈴木聡	金田	永井	鈴木聡	
呼吸器内科		(喘息外来を兼ねる 吉村千)			西坂	若山	※禁煙外来は 午後のみ
		森田	西坂	花岡健	多木	(喘息外来を兼ねる 吉村千)	
		花岡健	中川和	若山	有安	中川和	
		吉田真	多木	岡本菜	吉田真		
呼吸器外科		(セカンド オペション外来 中出)	中出	渡辺裕		川邊	
産婦人科		午前:川島 午後:松尾愛 午前:泉 午後:古田希	芦原	(第1・3・5週:古田希 第2・4週:松尾愛)	河原	泉	午後は再診のみ ※月～金曜日 助産師外来あり
		吉岡信	堀内	川島	吉岡信	三瀬	長野
		大久保	光森	前野	西村一	岩村	
泌尿器科		岩村	住吉	光森	前野	大久保	初診(紹介)・予約のみ
		河野	西村一(紹介)	光森	住吉	河野	
		大久保	光森	前野	(前立腺外来 西村一)		
		岩村	住吉	光森	前野	住吉	
眼 科		高山	中川聡	石井	中川聡	大 中	(火・木) 再診は予約のみ
		秋元	担当医	(午前:秋元 午後:中川聡)	担当医	田 口	
		廣井	石井(予約)	田 口	廣井(予約)	高山	
		大 中		廣井	高山	石 井	
耳鼻咽喉科 頭頸部外科		古田一	吉松	吉松		古田一	予約制 ※午後の専門外来 は再診のみ。初診は、各専門外来日 の午前中に、専門 医の診察をお受け ください。
		田中信	平塚	田中信	担当医	平塚	
		小山泰	小山泰	山田	担当医	渡邊佳	
皮膚科		隈部	山田	渡邊佳	担当医	隈部	すべて予約制
		立花	立花	小林	立花	小林	
		赤木	小林	赤木	赤木	太田	
		中東	太田	中島利	中東	中東	
形成外科		重吉	小田	重吉	担当医	内藤	
精神神経科		吉田佳	早川	吉田佳	早川	吉田佳	診 断 検 査 (透 視) 検 査 (CT) 検 査 (MRI) 検 査 (R1) 検 査 (血管造影) 検 査 (CT) 検 査 (MRI) 検 査 (R1)
		久保	和田	中神	植野	和田	
		担当医	(初診外来 担当医)	土戸	(初診外来 担当医)	担当医	
放射線診断科		藤堂	塩崎	前倉	小山貴	森本	診 断 検 査 (透 視) 検 査 (CT) 検 査 (MRI) 検 査 (R1) 検 査 (血管造影) 検 査 (CT) 検 査 (MRI) 検 査 (R1)
		小山貴	(外科)	塩崎	(外科)	大谷	
		森本・小嶋	藤堂・小山貴	小山貴・森本	小嶋・塩崎	前倉・小山貴	
		小山貴	前倉	本 田	森 本	大 野	
放射線治療科		塩崎	森本	(循環器科)	大嶋	藤堂	検 査 (R1) 検 査 (血管造影) 検 査 (CT) 検 査 (MRI) 検 査 (R1)
		岡田・大谷	岡田・大谷	前倉・大野	前倉・大野	大谷・塩崎	
		小山貴・前倉	大野・塩崎	塩崎・前倉	森本・前倉	大谷・塩崎	
		森本	小山貴	森本	塩崎	前倉	
歯 科 口 腔 外 科		石垣	中村清	担当医	中村清	石垣	すべて初診(紹介)のみ
		中村清	石垣	担当医	石垣	中村清	
		中村清	石垣	担当医	石垣	中村清	
	井上	杉立	本橋	担当医	担当医	担当医	すべて再診 (予約制)
	杉立	本橋	杉立		杉立	本橋	
	本橋	井上	井上		井上	井上	

- 受付時間(月～金) (診療開始は午前8:45からです)
 - 初診の方/月曜日～金曜日 8:30～11:30 ●再診の方/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休日 ●土曜日・日曜日・祝日・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券 ●診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会(病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護士にご相談ください)
 - 平日/14:00～19:00 休日/10:00～12:00、14:00～19:00 ●小児病棟(平日・休日とも)/14:00～19:00
- 保険証等 ●保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

■平成22年12月1日より
当院は敷地内全面禁煙です



当院は平成22年12月1日より、敷地内全面禁煙を実施します。ご理解とご協力をお願いします。

異動等により変更になる場合があります。
下記ホームページの各診療科のご案内をご覧ください。
各料外来にお問い合わせください。

お問い合わせ/TEL:06-6774-5111(代表)
(大阪赤十字病院) <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>
(赤十字全般) <http://www.jrc.or.jp/>

